

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 22 年度

事業所番号	2770901193		
法人名	社会福祉法人 ともしび福祉会		
事業所名	グループホームともしび		
所在地	高槻市安岡寺町6丁目5番14号		
自己評価作成日	平成 22年 6月 1日	評価結果市町村受理日	平成 22年 8月 10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2770901193&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 22年 7月 5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節のうつろいが身近に感じられる環境にあり、鳥やせみの声、木々の変化を感じ、よく鹿の姿も見られます。心が癒されゆったりとした気分になさしてくれます。社会福祉法人ともしび福祉会の傘下のもと「いつでも、どこでも、その人らしく、最後まで」をモットーに、職員は認知症に関する研修を受ける機会も多く、パーソンセンタードケアを心がけています。平成19年2月より取り入れた「公文学習療法」は指導者研修を受講した全職員が月20回1日20分行っています。入居者様も積極的に取り組まれており、コミュニケーションがスムーズに行えたり、自己決定が出来るなど活性化に成果が表れています。また、家族様、ボランティアさんの協力を得て、その人らしい生き方に沿うよう介護に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

30年来地域活動を経験してきた社会福祉法人が運営するグループホームです。隣接する特養との連携があり、診療所との医療連携支援も行っています。鹿や野鳥が多く息する自然豊かな環境に恵まれ、日常生活を楽しく支えてくれる多くの地域ボランティアにも恵まれています。年2回の家族懇親会を開き、家族アンケートを実施してホーム運営に活かしています。家族と外出したり、墓参りをしたり、自宅への外泊を日常化するなど馴染みの関係を大切にしています。また、介護相談員・地域ボランティア・実習生等を受け入れ地域に開かれたホームとして認識されています。利用者は穏やかで利用者間の関係も良く、活発で情操豊かな生活を営まれています。職員は明るく優しく利用者を支援し、利用者がゆっくり過ごせるようにお昼寝タイムを設けたり、頭の体操として学習療法導入を提案して効果を上げたり、常に熱意を持って利用者支援に取り組んでいます。管理者は職員の育成に力を入れながら、スプリンクラーの設置や設備改善を進めるなどサービス向上を推進しているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「毎日が敬老の日であり、こどもの日である」運営方針である「利用者の人権を尊重し、地域の人々と共生し、楽しく暮らせるよう努力し、地域の貴重な財産となるよう健全な運営を行う。」を日々念頭に置き、ホームの理念である「いつでも、どこでも、その人らしく、最後まで」を要所へ掲示し職員全員が共有、入居者様が安心して暮らせるように心がけています。	「いつでも、どこでも、そのひとらしく、最後まで」をホーム理念としています。また、ホーム運営方針では「利用者に対して、家庭的な環境と地域住民との交流のもとで、心身の特性を踏まえ、尊厳ある自立した日常生活を営む事が出来るように……する」と理念をわかりやすく具体化し、地域密着型サービスの意義をふまえた支援を行う事を明確にしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ホーム前の道が地域の方の散歩道として利用されており、日頃より犬の散歩などをされている方と交流をしたり、会話を楽しんだりしています。地域のボランティアの方も毎月定期的に来ていただいており、入居者様に楽しんでいただいています。また、毎年8月に開催する法人主催の夏祭りでは、多数のボランティアの方々と、盆踊りや出し物をしていただいています。	縫い物など、数種類のクラブ活動ボランティアや人形劇、キーボード・たて笛演奏ボランティア等が定期的にホームを訪れ、お散歩ボランティアが利用者の外出をサポートするなど、日常の生活が多くの地域ボランティアの協力によって運営されています。また、散歩や買物等で地域住民とふれ合う機会もあります。加えて介護相談員の訪問もあり、利用者の暮らしは地域とつながっており、情操豊かに、開かれた環境の中で営まれています。	運営推進会議の助言を受けて、さらに多くの地域住民に当ホームを知ってもらうための「ホーム見学会」を企画しています。また、近隣のグループホームとの交流を計画中です。企画が成功し、ホームと地域の繋がりが一層深まることが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	平成21年度に、地域の方を対象に当ホームの見学会を開催する予定でしたが、新型インフルエンザの影響で中止となりました。今年度実施する予定です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回、奇数月第4金曜日に実施しています。会議では利用者様の近況報告やホームでの行事報告、今後の予定など報告を行っています。また地域の代表お二人からの情報を取り入れ参考にさせて頂いています。	運営推進会議を定期的に行い、利用者・家族・地域代表・地域包括支援センター職員の参加を得ています。討議内容では災害対策と地域住民の助け合いについて、夜間の避難訓練、スプリンクラー設置、自治会加入の勧め、地域住民対象のホーム見学会の提案、利用者の杖の活用と是非について、外部評価、夏祭りについて等、多くの議題が提案され、活発な討論が行われています。また、提案された内容については具体化して、ホーム運営に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常に相談をしておりいつも適切なアドバイスをいただき大変助かっています。今年度中にスプリンクラーを設置しますが、様々な手続きなどで多大なご尽力をいただきました。 また、市主催の研修会などにも積極的に参加をしています。	日頃から担当者との連携があり、最近ではスプリンクラーの設置等、災害対策についての細やかな指導やアドバイスを受けています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者が併設している高槻ともしび苑全体の身体拘束廃止委員会事務局長を務めており、日々身体拘束廃止に関する指導を行っています。 マニュアルも「身体拘束ゼロへの手引き」を元に、職員が常に閲覧できる場所へ設置し周知徹底を図り、玄関へは「身体不拘束」宣言を掲示しています。	身体拘束は行わない方針をホーム内、玄関等に掲示し、職員はもちろん、全ての外来者にも理解されるよう徹底しています。ホーム総合玄関には鍵をかけていませんが、1階2階のフロア玄関は無断外出防止のためにオートロックしており、利用者は自分で鍵を開けることができない状況です。外出希望があれば職員が付き添い支援をしています。	フロア玄関については、安全性の確保を行った上での解錠が期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、管理者が委員会事務局長を務めており、直接の指導に当たっています。職員の心身の状況や悩みをできる限り把握し、無理のない勤務体制を確保、ストレスの軽減にも努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人研修にて、「人権問題」と「コンプライアンス」についての研修を実施しています。権利擁護と成年後見制度は、事例集を閲覧できる場所へ設置しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前、退居前に入居者様、家族様にお話を伺い、「申込みの手引き」「ご利用Q&A」により十分な説明を行います。契約時には重要事項説明書等の説明にて納得をしていただいております。契約後も不安や疑問等があれば相談に応じています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会の際には、積極的に家族様の意見を伺うようにしています。意見や要望があれば全員で周知できる範囲で対応、速やかに結果を報告するよう心がけています。家族様が直接話しづらい事もあると思いますので意見箱を設置し反映できるよう配慮しています。また年2回「家族懇親会」を実施アンケート調査も行っています。</p>	<p>年2回の家族懇親会を開き家族の交流とホーム運営に関する意見の聴取をしています。また、家族アンケートを行いホーム運営等についての意見集約を行う、意見箱を設置するなどして出された提案や意見については速やかにホーム運営に反映しています。月1回来訪される介護相談員からの提言、ボランティアからの提案なども利用者の立場に立った意見として大切にしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議を実施し意見交換の場を設けています。普段からも改善策や問題点を都度話し合い運営に反映し、職員は常に優先順位を考え意見を述べそれを汲み取る事がより良い運営に繋がっています。	職員は常に利用者にとって有効な支援方法を検討し、提案する姿勢を持っています。管理者や運営側は職員の意向を尊重し、新たな提案を受け入れ取り組んで見る柔軟さを持っています。双方の努力により、多くのボランティアの導入や公文方式頭の体操（脳活性化）などが実行され、利用者や家族から好意的な評価を受けると同時に、介護度が好転するなどの成果を得ています。	今後、管理者は職員の提案等を考慮し、設備、人員配置、業務内容の改善などについて一つひとつ検討していく予定にしています。業務検討が進み改善点が明確になる事が期待されます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤職員には年2回の考課表に基づき面接を実施、非常勤職員には努力・実績に見合った時給の見直しを年1回行っています。また、資格手当の新規創設を行い、やりがいのある環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修として法人研修を定期的実施しており、積極的に参加を勧めています。また、職員の希望に基づき、外部研修の参加も推進しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの交流も計画中です(NPO法人きらら)。また、同一法人の飛鳥ともしび苑グループホームとは定期的な情報交換を行い、サービスの質の向上に努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	突然の環境変化で入所当初は不安になられる事も少なくありません。そういったことを視野に入れご本人の話をゆっくりと傾聴し、コミュニケーションにできるだけ多くの時間を取るようにし、安心していただけるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望や疑問点等をしっかりと傾聴し入居者様に直接言えない事、耳に入れたくないことにも触れ、その上で十分に話し合いできる限りご意向に沿えるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前には、これまでに利用されていた他のサービス提供機関から、より詳細な情報を聴取するようにしています。それらを参考に何が必要か、何を望まれているかを職員間で話し合い対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や後片付け、洗濯物たみ、モップ掛け等生活の中でお手伝いしていただいています。そんな中でこれまでの経験や昔ながらの方法などをよく教わっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様へは面会の回数を増やしていただけるよう日頃よりお願いしています。面会時には外出（散歩等）も積極的にお連れしていただけるよう働きかけています。今では多数の家族様と散歩に出かけられています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古くからのご友人や以前お住まいであったご近所の方々のご面会も積極的に受け入れています。普段の散歩コースでも近隣の方と馴染みになっており挨拶を交わしています。	家族の協力も良く、自宅への外出や外泊が日常的に行われ、ご近所や馴染みの場所に行かれたり、墓参りをしたり、馴染みの医院や美容院に出かけたりと、当然のように取り組まれ、外出・外泊簿が活躍しています。古くからの友人やご近所の方々の面会もあります。また、利用者が年賀状や手紙を書かれる場合等の支援もしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お食事の際、食べやすいように配置して頂いたり食べ終えたお皿を自分のお盆へ引いて頂いたりと協力が見られます。職員はそれが相手に伝わりやすいよう工夫をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の家族様がボランティアで見えられる事もあります。 併設の特養へ入所された方にも職員が面会にお伺いしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様には担当職員を決め、一人ひとりの生活状況を常に把握しています。担当職員以外も入居者様の訴えにゆっくりと耳を傾けています。困難な場合は計画作成担当を交え、都度話し合いの場を設けています。	職員は利用者一人ひとりの担当者を決めて、思いや希望を大切に支援しています。利用者の得意なこと苦手なことを把握して、得意なことで力を発揮されるように活躍の場を設けています。利用者は穏やかで利用者間の関係が良く、共に助け合い協力しあう状況が見られます。家族の細やかな支援もあり、利用者が日常的に大切にされている状況が写真や記録にも見られます。	入居を予定されている利用者と家族については事前に家庭訪問をする、状況を詳細に把握するなどして、利用者が入居時に馴染めるように、さらに力を入れる予定にしています。利用者の思いや暮らしの希望がより多く実現する事が期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される際にご本人や家族様からこれまでの生活歴や食べ物の嗜好などを伺い、できる限り希望に添える様に努めサービス計画へ反映させています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様は一人ひとりの全てが違います。日差変動や気候の変化によっても心身の状態が変わってきます。そういったことにも対応できるように毎朝の報連相は欠かせません。夕方の申し送りでも日勤者から夜勤者間で状況を密に伝えています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の居場所をみつけ、生き生きと生活して頂くために、ご本人を交えて家族様と職員で担当者会議を設け、応援していく姿勢でいます。それらを介護計画に反映させ、1～3ヶ月のモニタリングで目標の達成や改善点の有無を検討します。‘いつでも、どこでも、その人らしく、最後まで’の理念に基づいています。	介護計画書には長年利用者が馴染んで来られた生活状況や好み等を記載し、現在の状況と照らし合わせて目標を設定しています。利用者や家族の希望を尊重し、ホーム全体の行事やクラブ活動、ボランティア支援などは利用者の好みを優先したものにすることで、日常生活が意欲的に楽しく生活できるように工夫しています。アセスメント・モニタリングは定期的に行い、必要な場合には随時見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の健康状態や様子などは毎日記録しています。その中で変化のあったことや気付いたことをすぐに話し合い、実際に対応できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に応じ、都度対応できるように心がけています。入居者様の重度化に伴いホームとしての方向性をどうして行くのか、今後の大きな課題です。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーマーケットへ買い物に出かけたり、外出時の移動手段として市バスを利用したりする事もあります。そのバスの中で他の乗客と話がはずむ姿が見られます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回併設の診療所より定期的に医師が往診に来られます。定期診察以外にもいつでも気軽に相談する事ができます。精神科、皮膚科の受診も毎月1回定期的な受診を行っており、歯科に関しては都度往診に来ていただいています。	利用者や家族の希望を大切に受診支援をしています。入居時には馴染みのある、かかりつけ医院等を受診される場合があります。ホームの生活に慣れて来られると、自然にホーム提携医師をかかりつけ医に選ばれている状況があります。ホームでは内科・歯科は往診ができるように、精神科・皮膚科等は定期的な受診支援を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より入居者様の僅かな変化や気付きを常に相談しています。また、定期的に現状の報告を行い、看護職員が入居者様の状況を常に把握しているように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関とは連絡を取り合い情報交換するようにしています。入居者様の入院時には計画作成担当者やご本人担当職員が病院へ行きケースワーカーや病棟看護師に経過をたずね、家族様とも連絡を取り合い状況の確認などを行っています。退院後には必要に応じアセスメントを実施、計画の見直しも行っていきます。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の心身の変化に十分留意し管理者、職員、家族様が情報の共有を図り、状況に応じて相談していきます。その際には当ホームで対応できる事とできない事を明確に伝え、主治医や医療機関とも連携を図り、検討してまいります。	終末期支援については明確な方針は定めていませんが、重度化された場合には利用者や家族の希望に添って支援をしていく用意があり、家族の了解も得ています。今後はホームで対応できること、できない事を明確にしながら、主治医や医療機関とも連携を深め、終末期支援を行う予定です。	ホームでは今後に備え、母体法人とも相談しながら看取り方針を明確にする予定です。今後の取り組みが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル、緊急連絡網、事故対応マニュアルを要所へ設置しています。急変時や事故発生時の対応は管理者、計画作成担当者を中心に日々話し合いを行っており、併設診療所看護師とも相談し個別の急変時の対応も行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日本医療福祉建築協会発行の‘防災と耐震対策を災害時マニュアルとし設置しています。避難訓練は年2回昼間想定と夜間想定で実施しており避難経路や誘導の周知徹底を図っています。併設の特養には備蓄倉庫もあり食料や飲料水の備蓄はもとより衛生用品などの備蓄もしています。	年に2回防災避難訓練を実施しています。消防署立会いのもとに利用者も参加して避難訓練を実施した記録や写真が保管されています。また、市の援助を得てスプリンクラーの設置を行うなど、積極的な対応も見られます。運営推進会議の議題に取り上げ、地域との相互協力についても話し合いをしています。備蓄は主に隣接特養で行っていますが、1日分程度の食材はホームに用意しています。	備蓄については隣接特養に保管している分量から当面2～3日の必要量をホームに移動し保管する予定です。水・食材の速やかな移動が期待されます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様は人生の先輩であるという事を常に念頭に置き、日々職員間で意識をしています。家庭的な雰囲気をもたせたいようにあまり硬くなりすぎず、ゆるくなりすぎず、一言一言を注意し行動を考えながら接しています。	職員は一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応をしています。記録の保管や掲示物の内容についても細かく配慮して適切に対応しています。オムツ類の保管等も目につかないようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の訴えを傾聴し思いを受け止め、納得していただける支援を行っています。自己決定は学習療法によるコミュニケーション向上により実現しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活ペースに合わせ、制止したり急がず言葉がけはせず、柔軟な対応を心がけており、個々にお好きな時間を過ごしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定ができる方は身だしなみやおしゃれを楽しんでいただけるように意向を尊重していますが、できない方は職員と一緒に考え本人の意向を確かめながら支援しています。散髪も月に1回なじみの理容師さんに来ていただきホーム内で行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に食事をつくり盛り付けや準備などを行っています。味付けもしてもらい味見をしながら料理の会話が弾み楽しい時間を過していただいています。食事は一人ひとりのペースに合わせて食べていただいています。	食事メニューは利用者の希望を取り入れながらフロア毎に職員が作成し、1週間毎にフロアメニュー交換をしています。利用者は食事の下ごしらえ、味見、片付けなど役割を持って取り組まれています。職員は利用者と共に食事をしながら会話を楽しみ、必要な支援をしています。時にはサンドイッチ等の外注をする、ホームで栽培した野菜などを味わうなどして楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事摂取量と水分摂取量を把握し記録をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔内の保清に努めています。義歯の方は毎週土曜日に洗浄剤にて洗浄を行っています。必要に応じて、訪問歯科の受診を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンをつかみ、個々に応じた時間誘導を心がけています。	利用者一人ひとりの排泄パターンを確認し、時間や素振りを見て、トイレに誘導しています。またオムツ類を極力使わない支援を心がけ、リハビリパンツをホルダーパンツや布パンツ対応にするなど、細かく調整しながら自立支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に食物繊維の多い野菜類や牛乳を毎日摂取していただいています。また、散歩や軽体操・室内ウォーキングなどで便秘予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様は週に3回入浴を楽しんでおられ、希望があれば日中であればいつでも入浴可能です。浴室では職員との会話も弾んでいます。	週に3回を基準にし、入浴支援をしています。希望があれば毎日でも入浴ができ、毎日のように入浴を楽しまれている利用者もあります。入浴を好まない場合でも時間を見て声かけを行い、汚れている部分があればシャワー浴を勧めたりしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムパターンがあるため、ご本人本意の援助をしています。和室のコタツでゆっくりと休息される方もおられます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルに保管しており常時確認をしています。服用は薬に間違えはないか欠薬はないかを声を出し確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材の下ごしらえ、盛り付け、食器洗い、洗濯物たたみなど、家事全般をしていただき、入居者様の習慣や持っている力を引き出し、柔軟な支援を行っています。また、季節の飾り付けや、学習療法に取り組み入居者様の楽しみや得意な事への支援を行っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や希望に応じて、散歩に出かけた後、ボランティアさんによる散歩や家族様と共に外出をされています。行事の中でもお花見や外食会、紅葉狩り、買い物デーなどで外出をしていただいております。	買物日や散歩日を決めて外出しやすくしています。近くのスーパーへ出かけたり、市バスを利用して遠出をしたりすることもあります。ボランティアの協力を得て散歩をしたり、外出の機会を増やしたりしています。また、家族の力を借りた外出や、自宅への外泊なども推奨しており、利用者にとって外出は日常的な楽しみごとになっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は管理できる方もおられましたですが、現在は行事（買い物デー）時のみに限られています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	年賀状は毎年書いていただいています。電話は要望があれば使用可能で、携帯電話をお持ちの方もおられます。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前のベンチで季節の花を觀賞しながらのティータイムや外気浴を楽しみながらの入居者様同士談笑しながら落ち着いた雰囲気の中居心地よく過ごされています。また、季節感のある花をいけていたり、壁に飾りつけを取り入れています。	敷地が広く裏山は鹿が遊びに来るような自然があります。玄関から門までに広いテラスがあり、野菜を育てたり、ベンチではお茶を楽しんだり、野外での食事を楽しむこともできます。ホーム内は広々として中央に和室があり、掘りこたつ形式になっています。利用者は和室の畳に腰かけたり、横になったり、お茶を飲んだりしてくつろぐことができます。季節に合わせて飾り付けをしたり、草花を植えたりして、四季を感じられるようにしています。	ホームが設置されて8年が過ぎ、ハード面の課題も出てきていると管理者や職員は認識しています。利用者の介護度に見合った入浴設備や車イス対応のトイレ整備など、状況に応じた対応ができるように施設整備を検討する予定です。今後は、利用者がより使いやすい設備へと改善されることが期待されます。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にあるテレビ前にコタツを設けており、テレビを観たり休息を取られたりゆっくりとくつろがれています。ベランダでは管理者と一緒に煙草を吸いながら会話を楽しまれている方もおられます。各居室は気の合った方が自由に出入りできる環境を心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みのある物(タンス類・テレビ・写真・テーブル・椅子・お仏壇等)を持ち込んでいただき、落ち着いた安心した生活空間になっています。	利用者は居室の入口に自作の名札を付けたり、それぞれの作品を飾ったりして、わかりやすくされています。また、馴染みの家具を持ち込まれ、家族写真や自作の品、ぬいぐるみなどを置いて楽しまれています。居室には和室と洋室があり、イスを置いたりして住みやすく工夫されています。1階には室内にトイレが設置されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入り口にご本人の写真と表札を用いた環境づくりを行っており、生活環境に応じた安全かつ温かみのある手すりを設けるなど、建物内部は昔ながらの落ち着いた木造作りです。		